

2013年度

# S 世界史問題

## 注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

### マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

 (3と解答する場合)

I. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

ルイ14世は1638年に生まれ、1643年に王位についた。はじめは母后アンヌ・ドートリッシュが摂政となり、枢機卿（イ）を宰相に起用して統治にあたったが、王権への高等法院や王族・大諸侯の反発は根強く、1648年に勃発したフロンドの乱は収拾までに5年を要した。しかし1659年には、三十年戦争終結後も交戦を続けていたスペインを軍事的に圧倒してピレネー条約を結び、ルシヨン等をスペインから得て南西国境を画定した。

ルイ14世は1661年から親政を開始し、相次ぐ外征により国威を発揚した。1667～68年の戦争でフランドル西部を、1672～78年の戦争でフランシュ＝コンテを得た。続く1688～97年の戦争で、アルザスの領有を確定した。この戦争では北アメリカ植民地でもイギリスとの間で戦闘が生じた。またアジアでは、インド東海岸のフランスの拠点ポンディシェリが一時、オランダに占領された。さらに1701年からはスペイン継承戦争が戦われた。その終結のため1713年に結ばれた（ロ）条約でルイ14世の孫がスペイン王位に就いたが、北アメリカではハドソン湾、＜あ＞、アカディアがイギリスの手に渡った。

ルイ14世は国内では、パリ近郊モーの司教＜い＞らの主唱する王権神授説を体現する神権的絶対君主として、国民諸階層の上に圧倒的に君臨した。「朕は国家なり」の語で有名なルイ14世の国民への支配は宗教にまで及び、1685年にナントの王令を廃止したため、（ハ）の商工業者の国外逃亡を招いた。一方で大規模な宮殿がヴェルサイユに造営され、古典主義文化が華開いたが、晩年には対外政策の挫折と国力の疲弊から財政が窮乏化した。<sup>3)</sup>

1715年にルイ14世が没すると、5才の曾孫が即位してルイ15世となり、1723年から親政を開始した。当初は平穏が保たれたが、やがてフランスは1733～35年にはポーランド継承戦争に、1740～48年にはオーストリア継承戦争に関与し、さらに1756～63年には七年戦争で多くの国を敵に回した。戦線は世界各地に拡大した。北アメリカでは、イギリス側のいう＜う＞戦争が、七年戦争に先立って始まっており、戦闘は七年戦争終結まで続いた。1763年の＜え＞条約でフランスはカナダとミシシッピ川以東のルイジアナをイギリスに、ミシシッピ川以西のルイジアナをスペインに割譲し、北アメリカ大陸の植民地をすべて喪失した。

北米大陸とならび英仏の争奪の的となったのがインドである。16世紀前半、北インド全域を平定したムガル朝の第3代皇帝（ニ）は、宗教的宥和政策をとり、非イスラーム教徒に課されていた人頭税（ジズヤ）を廃止した。ムガル朝は17世紀を通じて繁栄が続けたが、地方領主が徐々に力を蓄えた結果、中央集権的なしくみは次第に形骸化した。第6

代皇帝（ホ）はデカン平定に力を注いだので彼の治世にムガル朝の版図は最大となった。しかし彼は敬虔なスンナ派ムスリムであり、ジズヤを復活し、ヒन्दゥー寺院を破壊するなどのイスラーム化政策をとったので、1707年に彼が死去すると、ムガル帝国は急速に解体へと向かった。帝位の争奪戦が続くなかで地方勢力は次々と自立し、30年ほどのうちにムガル朝の威令は首都デリー周辺にしか及ばなくなった。17世紀末の弾圧を機に軍隊化した（ヘ）教団は、パンジャブを中心に次第に勢力を伸ばし、19世紀初めには一大王国を築くに至った。南インドでは、17世紀初めに<お>王国から分かれたマイソール王国が、18世紀には自立して、独自の集権体制の構築へと向かった。ムガル朝に代わりインド最大の政治勢力となっていたのはマラーター同盟である。17世紀中ごろからデカン西北の山岳部で急速に台頭したヒन्दゥー教徒のマラーター族は17世紀後半に王国<sup>4)</sup>を創始した。一時ムガル朝に服し王権は衰えたが、18世紀に入るとパラモン出身の宰相を中心とする有力諸侯の連合体マラーター同盟として勢力を盛り返した。

イギリス・フランスがインドで交易の主導権を争いはじめたとき、インドは以上のような地方勢力台頭の時期を迎えていた。元来、ヨーロッパ人にとってインドの諸港市は交易拠点でしかなかった。ポルトガルは、1510年にインド西海岸に獲得した<か>を中心に、最盛期にはアフリカから極東にかけおよそ50の拠点をもち、要塞化された商館と約100隻の武装商船でインド洋の制海権を握ることで、東南アジア産香辛料のヨーロッパ向け貿易の独占を図った。この香辛料貿易の利権を17世紀初めにポルトガルから奪取し、東南アジア<sup>5)</sup>を最大拠点としたオランダは、香辛料栽培地そのものを支配する政策をとり、南アジアでも、今日では内陸部が紅茶の産地として有名な（ト）島の、シナモンを産する沿岸部を占領した。しかし、インド亜大陸各地にあったオランダ東インド会社の商館は、ムガル朝が依然強勢だったこともあり、交易に専念していた。

1623年の（チ）事件以後、東南アジアから撤退を余儀なくされたイギリス東インド会社は、インドを拠点とする貿易に集中したが、17世紀後半からヨーロッパでインドの綿織物に対する需要が増大すると、その輸出が大きく伸び、1740年頃までにイギリス東インド会社のアジア欧州間の取引額はオランダを上回った。

フランスも1730年頃からインド貿易に力を入れ、以後10年でフランスの東インド会社はヨーロッパでの販売額を倍増させてイギリスに肉薄した。1740年に英仏間で戦争が始まると、艦隊規模が劣り海上戦闘で分の悪いフランスは、航路を十分確保できず海上貿易額が激減した。そこで総督（リ）は陸に目を向け、インドの地方政権の内紛に援軍として介入し、イギリスの交易に打撃を与えつつ新たな収入源の獲得を図ったが、その冒険的政策を嫌ったパリの本社は1754年、彼を解任した。以後情勢はイギリス優位に傾き、1757

年のブラッシーの戦いを経て、1763年にはフランスはインドにおいて2都市を除くすべての獲得地を放棄した。フランスはマイソール王国を助けてイギリスの進出を阻もうとしたが、4次にわたるマイソール戦争は1799年、イギリスの勝利で幕を閉じた。

こうしてルイ15世のフランスは、海洋覇権の争奪戦でイギリスに大きく水をあけられた。しかし1766年にロレーヌを併合し、1768年にコルシカを購入するなど、前王以来の領土拡張政策を着々と推進した。他方で、こうした対外政策に多額の出費を重ねたため、財政難はさらに深刻化し、啓蒙思想家による王政批判は激しさを増した。1774年にルイ15世は没し、王位は孫のルイ16世に受け継がれた。

A. 文中の空所(イ)～(リ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>～<か>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次のa～dから1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- |     |               |                |
|-----|---------------|----------------|
| <あ> | a. アラスカ       | b. ケベック        |
|     | c. ニューファンドランド | d. フロリダ        |
| <い> | a. グロティウス     | b. ケネー         |
|     | c. ボシュエ       | d. ボーダン        |
| <う> | a. アン女王       | b. ジョージ王       |
|     | c. ブール        | d. フレンチ=インディアン |
| <え> | a. カトー=カンブレジ  | b. ニスタット       |
|     | c. パリ         | d. ベルリン        |
| <お> | a. アーンドラ      | b. ヴィジャヤナガル    |
|     | c. シンハラ       | d. チャールキヤ      |
| <か> | a. アグラ        | b. ゴア          |
|     | c. スーラト       | d. ハイデラバード     |

C. 文中の下線部1)～8)にそれぞれ対応する次の問1～8に答えよ。

1. この戦争の名をしるせ。

2. ルイ14世が孫のスペイン王位継承権を主張した根拠を、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 自身の后がスペイン王女だった
  - b. 自身の母がかつてスペイン王の後だった
  - c. 自身の息子がスペイン王女を妻としていた
  - d. 自身の娘がスペイン王子に嫁していた
3. ルイ14世治下に活躍した古典主義の文人でないものを、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. コルネイユ
  - b. モリエール
  - c. モンテーニュ
  - d. ラシーヌ
4. このとき即位した国王の名を、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. カピール
  - b. シヴァージー
  - c. ジャハーンギール
  - d. ナーナク
5. 東南アジアに進出したオランダ東インド会社の、ジャワ島における最大拠点となった都市の名をしるせ。
6. このときのイギリスの勝利の立役者クライヴは当時若干32歳であった。かれは19歳のときから東インド会社書記としてインドで活躍していた。かれの最初の任地は、その時より100年以上前にイギリスが要塞化し拠点としていたところである。その都市の名を、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. カルカッタ
  - b. ダッカ
  - c. ボンベイ
  - d. マドラス
7. このうちの1つはポンディシェリであるが、もう1つの都市はベンガル地方にある。その都市の名をしるせ。
8. ルイ16世治下の財政難処理に関する次の文を読み、文中の空所(i)～(iii)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

1774年、ルイ16世によって蔵相に任じられた経済学者 ( i ) は、自由主義的な改革を試みたが、挫折し1776年に失脚した。翌年、銀行家 ( ii ) が蔵相となって財政改革を行おうとしたが、特権身分である ( iii ) ・聖職者に課税しようとして彼らの反発を買い1781年に罷免された。

II. 次の文を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

中華文明は異なる文明が融合して形成されたと考えられている。なかでも黄河文明と長江文明に由来するものが多い。黄河文明は中原の諸国が引き継いだ。長江文明の系譜を引くものに楚がある。楚は『春秋』にちなんで名づけられた春秋時代から『戦国策』にちなんで名づけられた戦国時代にかけて、一貫して強国であった。

黄河文明は『詩経』を生み出した。『詩経』は、漢代に儒学が（イ）の提案によって国家の学問とされると、その經典の1つに加えられている。長江文明は楚の王族（ロ）の詩歌を中心とする『楚辞』を生んだ。『楚辞』に用いられた詩歌の形式は、漢代から南北朝にかけて流行した。特に「桃花源記」の作者である陶潜とならんで、山水詩の祖とされる（ハ）の作品が名高く、その多くは（ニ）が<sup>3)</sup>編纂した『文選』に収められている。

『詩経』に収められた「伐木」には、「木を伐る音が響くと、鳥が鳴き騒ぎながら深い谷より飛び立ち、高い木に移る」という一節がある。ここに自然を開拓する強い意志を持った黄河文明の特質を見ることができる。『楚辞』の「湘夫人」では、「女神の湘夫人がおわす部屋は湖面に張り出して築き（中略）、香ばしいサンショウの実を敷きつめて奥座敷をこしらえる」とある。自然を尊重する長江文明の傾向を、感じ取ることができる。

戦国時代には多様な思想家が登場し、論争が行われた。楚出身の許行は、君主も民も平等に<sup>4)</sup>農耕すべきだと主張し、自給自足の生活を目指した。その思想は農家と呼ばれる。許行の思想に対して黄河文明側の思想家は、「むかし、堯のときは草木が繁茂し、禽獣が繁殖し、穀物は実らなかった。堯はこれを憂い、舜を後継者として採用して治めさせた。舜は伯益という名の配下に命じて、<sup>5)</sup>草木を焼き払い、禽獣を追い払った」と述べ、中国古代の帝王が、開発を進めたのだという。ところが「南蛮から来たモズのような言葉を話す人（許行を指す）が、先王（堯や舜を指す）の道は間違っているとしている。（中略）私は鳥が谷を飛び出して高い木に移ることは知っているが、高い木から下りて谷に入るといったことがない」と述べている。この一節は、『詩経』に由来する。

黄河文明を継承した秦に抵抗するものは、楚とのつながりを強調した。「王侯将相いづくんぞ種あらんや」という言葉で知られる（ホ）は反乱を起こすと楚の復興を唱え、秦を滅ぼした項羽も、楚の將軍を務めた家柄の出身で、西楚の霸王を称した。『史記』にある四面楚歌の故事は、漢の軍隊のなかにも楚出身者が多くいたことを示している。漢代には皇后の宮殿を「椒房」と呼び、サンショウを壁に塗り込めたという。このサンショウの使い方は、『楚辞』の女神の神殿と同じである。漢の文化は、黄河文明の開発主義と長江文明の自然主義とを、融合させたものであったと考えられる。

- A. 文中の空所(イ)～(ホ)それぞれにあてはまる人名をしるせ。
- B. 文中の下線部1)～7)にそれぞれ対応する次の問1～7に答えよ。
- この文明に属する新石器時代の遺跡はどれか、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。  
a. 河姆渡遺跡      b. 姜寨遺跡      c. 三星堆遺跡      d. 良渚遺跡
  - この史書の原文は、戦国から前漢にかけて制作された「伝」と呼ばれる3つの注釈書によって伝えられている。清末に康有為が、改革者としての孔子の意見が示されているとして重視した「伝」の名をしるせ。
  - この詩人とほぼ同じころに生きたとされるインドの詩人・戯曲家で、『シャクンタラー』などの作品を残した人物の名をしるせ。
  - これらのうち次のi・iiの文言を残した思想家の名を、それぞれに対応する下記のa～dから1つずつ選び、その記号をマークせよ。  
i. 以兼相愛交相利之法易之（お互いを隔てなく愛し合い、お互いを利する方法が天下の利益に適っている）。  
a. 呉子      b. 莊子      c. 墨子      d. 老子  
ii. 人之性惡，其善者偽也（人の本来の性質は悪であり、それが善である者は、人為の結果，そうなったのである）。  
a. 韓非      b. 荀子      c. 鄒衍      d. 孟子
  - 支配者の血統が替わる「易姓革命」のうち、堯から舜への移行のような武力を伴わない王朝交替の形式を何と呼ぶか、その名をしるせ。
  - この言葉は戦国時代の世情が復活した様相を表している。この世情を1行で説明せよ。
  - この史書が著された時期よりも半世紀あまり前、ローマで『歴史』を著し、そのなかで君主政から暴君政を経て民主政にいたり衆愚政から再び君主政に推移するという政体循環史観をとらえたギリシア人の歴史家の名をしるせ。

Ⅲ. 次の文を読み、文中の下線部 1)～6) にそれぞれ対応する下記の設問 1～6 に答えよ。

解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

結成当初の東南アジア諸国連合 (ASEAN) は、反共軍事同盟という性格が強かった。1967年の ASEAN 創立時の参加国のうち、フィリピンなどは反共軍事同盟であった東南アジア条約機構<sup>1)</sup>にも参加していた。しかし、ASEAN は1970年代に政治・経済面での協力機構へと移行した。冷戦が終結した1990年代にはインドシナ諸国<sup>2)</sup>のベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアが相次いで参加したことで、地域協力機構としての性格をいっそう強めた。

1997年にクアラルンプールで開催された ASEAN 創立30周年記念の首脳会議に日本<sup>3)</sup>、中国<sup>4)</sup>、韓国の首脳が招待されたことが契機となり、「ASEAN+3」と表記される ASEAN と日中韓との協力関係が模索されるようになった。1998年に開催された13カ国の首脳会議では、韓国の金大中大統領<sup>5)</sup>の提案により、東アジアにおける幅広い分野での将来的な協力の可能性とそのための方策について、民間有識者で協議する場が設置されている。

インドネシアから独立した東ティモール<sup>6)</sup>も ASEAN 加盟を希望しているが、2012年の時点では、実現していない。

1. 条約機構の創立時に参加国でなかった国はどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. オーストラリア                      b. ニュージーランド  
c. パキスタン                            d. ベトナム共和国

2. これらの国々の植民地化に関する出来事 a～dのうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。

- a. カンボジアがフランスの保護国となる  
b. ビルマの全土がイギリスによってインド帝国に編入される  
c. ベトナムがフランスの保護国となる  
d. ラオスがフランスによってインドシナ連邦に編入される

3. アジア・太平洋戦争がはじまると、独立を求める東南アジアの人々は、この国に対して複雑な動きをみせた。この動きに関する次の文を読み、文中の空所(イ)～(ニ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

1920年代にインドネシア ( イ ) の党首となって民族運動を率いたスカルノや、ビルマ独立義勇軍を率いてイギリス軍を駆逐しようとした ( ロ ) は、独立するた



めに日本に協力した。しかし、日本軍の過酷な軍政のために、東南アジア全域で抗日運動が広がった。ビルマ国軍を率いた（ロ）は、1945年に日本の軍隊に反旗をひるがえしたが、戦後、独立達成の直前に暗殺された。ベトナムではフランス軍と戦っていた民族統一戦線である（ハ）が、日本軍のインドシナ進駐後は日本軍と戦った。フィリピンでは抗日ゲリラ組織である（ニ）がルソン島などで活動し、戦後はアメリカ軍とも戦っている。

4. この国に対してイギリスは、1997年に九竜半島の租借地を返還した。この土地以外にイギリスが租借したことのある場所はどこか、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

a. 威海衛      b. 広州湾      c. 膠州湾      d. 旅順

5. この大統領は朝鮮民主主義人民共和国に対して包容政策と呼ばれる融和的な政策を進めた。寓話にもとづいてつけられたこの政策の別称は何か、その名をしるせ。

6. この地を1974年まで植民地としていた国の名をしるせ。

【以下余白】



